



欄に数値またはコメントを入力

1. 建物概要						
建物名称	県営住宅駒越団地1号棟	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5	ふつつ		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.4	/5	がんばろう		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.8	/5	ふつつ		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1	/5	がんばろう		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>3.5</b>
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①外皮性能の向上。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能	② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-1 3 3.1 3.1.3		
	3.2 3.2.1		
	Q-2 2 2.2 2.2.1		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦Low-E複層ガラス採用による熱負荷抑制。 ⑨LED照明の採用	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水资源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水設備器具の採用。 ⑬有害物質を含まないシーリング材、接着剤の採用。 ⑬ノンフロン現場発泡ウレタン断熱材の採用。	LR-2 1 1.1	⑪ 節水	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮	
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>2.4</b>
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰耐震性能の優れた配管支持方法を採用した。	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.4 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能	⑰ 空調・換気設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	<b>3.8</b>
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高を3.05mとした。	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑳ 階高のゆとり	
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>2.1</b>
■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔極力緑地を確保する計画とした。	Q-3 1	㉒ 生物環境の保全と創出	
	2 2	㉓ まちなみ・景観への配慮	
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖建築物の外皮性能を向上させることにより建築設備からの排熱量を低減する。	LR-2 2 2.5	㉕ 持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3 2 2.2	㉖ 温熱環境悪化の改善	

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅駒越団地1号棟	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市清水区港南町2690	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	111人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年6月1日
敷地面積	5,041 m <sup>2</sup>	作成者	大村政人
建築面積	996 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,047 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 72% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 57%

④上記+ 57%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	複層ガラスを採用し、熱負荷低減に配慮した。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	構造部材を損傷することなく設備の修繕、更新が可能となるよう配慮した。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	周囲の街並みや景観を損なわないような外観となるよう配慮した。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	建物の外皮性能を高め、エネルギーの消費量を低減させるよう配慮した。太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーを有効に利用する。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	リサイクル資材、有害物質を含まない材料を採用する。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	特になし。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される